

【議事】定 40

(1) 第 14 回衛星設計コンテスト結果報告について

JAXA の中谷先生が資料 40-1 (設計コンテスト) をじっくりと説明した後、下記の質疑応答があった。

青江: インフレータ構造物(設計大賞を取った衛星)があったが、何故、将来有望な技術なのか。

JAXA 中谷: 小さく運んで大きく展開する方法の一つである。延ばした後に硬化させなければならず、ゆがみが小さくならない。工学的にも難しさがある。

青江: (納得がいけないらしく、何か言っていたが聞き取れなかった。)

井口: これはガスで膨らませるのか。

JAXA 中谷: そうである。

井口: 新しい技術ではないのか。

JAXA 中谷: 新しくは無い。軌道を変えるのに使うところがユニークである。

井口: そんなにブレーキが掛かるのか。

JAXA 中谷: 低軌道では空気が存在するので、ブレーキが掛かる。ISS も低軌道であり、高度が下がってしまうので、しばしば推進装置を動かすようになっている。

井口: H- A ピギーバックと言いながら、あとは自分で衛星を作れと言うのは惨い。<sup>1</sup>見積もりは出ているのか。どの程度の費用で

---

<sup>1</sup> そのようなことは無い。本当にやりたければ何とかするであろう。また、JAXA が必要と思う技術であれば、予算を付ければ良い。意義と熱意と実現可能性が整わないから実現しないと割り切るのが筋ではないか。

できるのか。

JAXA 中谷: 1 億 1400 万と見積もっているが、学生の見積もりは甘い。これで間に合うとは思えない。また、技術的にも難しい物である。良く、林先生のようにやれば良いと言われるが、(鯨衛星は)林先生が居たからこそできた。

井口: お金を集めることを言っているのか。

JAXA 中谷: 技術的なことを言っている。

井口: 宇宙で 1 千万<sup>2</sup> というような物は無いのか。

JAXA 中谷: 宇宙で通信だけを行う、そのような物ならできる。

井口: それではしょうがない。

JAXA 中谷: 学生にとって大切な経験<sup>3</sup> になり、大変良いことである。CANSAT のような物を指しての発言である。

---

<sup>2</sup> 「宇宙の裾野を広げたい」とひたすら思っているのもであろう。しかし、裾野は広げるものではなく、広がるものではないか。既得権を守ろうとして広げないように動くことは厳に慎むべきことであるが、無理に広げようとするのも戴けない。

<sup>3</sup> 「経験」することに 1 千万が高いか安いのかの議論は置いておき、「大切な経験」である点に同意したい。更に、この経験者が宇宙の業界に進むことを深く気かけなくても良いであろう。どんな業界に進んでも、経験を活かしてくれることを期待すべきである。